

琵琶山下結高堂 嘘月以花傾寿觴

碩徳伝來孫又子 誰知積善有余慶

同

由来仙骨非凡骨 況又衛生時得宣  
休笑古稀賀篇拙 米年金此賦新詩

同

童顏七十狼丹霞 累見蟠桃老着花  
時夜夢過蓬島上 祥重簇々護仙家

同

姪々孫々孫又子 満堂和氣樂依々  
其心其徳稀今世 年壽非唯為古稀

寄猪湖琶岬叟古稀を寿ぐ

若々し春立雪の翁しま  
松もみとりのいる添るころ  
もたせ物鰯に筆を打かけて

返事はすれと隙のとれけり

月の雪横になり又たてになり  
窓から塵を捨るひや水

## おのく前文略

苔ころも重ねて立や松のとし  
たれいふとなけれど花のあるし哉菊苗や今から花を見るこゝち  
末長し石井あふるゝ春の水鍛手とは見えず小松の曳ちから  
七めくりして末長しはるの水なゝくさや君かちとせの祝ひ種  
摘添て祝ひはやさん七若菜千代迄もいはひ重ねて七つかな  
いつ見ても笑ひ顔なり安積山是からか薫るやうめの七分咲  
古稀の賀や千代よろつ世も花の主豊さや何を餌にして匂ひとり  
紅うらをはれや齡の着そはしめ  
年たつやひとの中なる人の花  
いさともに登らん山の花千本  
花七つ元日草の咲にけり老木ほとかをりの深し梅の花  
ゆかしさや古来稀なるとしの花  
年を経し松や殊更はなのつや  
まつ竹に齡ひかさねてとしの花  
蓬萊と共に尽せぬよはひかな  
内外にめたつはしらや七五三飾とし毎に色古稀松のみとりかな  
七草の香にしられけり空のいろ  
まれな幹稀な枝也花の兄蓬萊に尽せぬ千代のほまれかな  
春毎に愛ます古稀の姿かなたのしみはまた奥あるや花の山  
稀といふめてたきとしや君か春

石井より汲若水や幾千とせ

鶴の舞ふ岬の空や日のながき

小松ひく力も有や君はまた

此先か何処迄あるや花のおく

千代を手に握る翁や小松曳

七草のはやしや千代も同しさま

うめ一木たくひ稀なる色香哉

実を結ふつやの見えけり桃の花

年々に梅の立枝やかをるはな

鶴と亀松と八千代の椿かな

四海波静な春や翁しま

松風も千とせを呼や門の春

根塙へをつほみに見せて冬つはき

こけのむす程香の高し梅の花

麗しく次第に伸る春日かな

世も年も鶴にまかせよ君か春

万才もあやかる君か齡かな

白うめの益ふかき匂ひかな

千代経へき操を松のみとりかな

寿も自然に持てまつの花

七十路はまた蓬萊の禁哉

名に立し岬の松や千代の春  
十返りの幹枝ぶりや花の兄

福良 赤藤烏洲

自川 山下切所

一本松 若松 糜沢

如雲 一娥 朴齋

水香 可祝

守山 壺中 清翁

知足 月 好文

丈山 雲霄

秀峰 月

半窗

桐山

里鶴

玉雅

直

櫻壺

古東

悠

兎

月

指

輪

轍

昇

野沢 七十九

喜多方

猪苗代 塩川 村松

忠孝 香器 竹圃

香雅 梅花

香久 香堂 昇山

香器

香久

指月

輪昇

月

昇山

常陸 尾張 樵翁 羽洲

福島 八重子

八十四故

82